

踏み跡 <My Mountains>

信州	奥裾花溪谷探勝ほか	No.327
----	-----------	--------

長野県の北端、戸隠山の裏手に裾花川という素晴らしい谷があるということを知ったのは昭和 40 年頃だっただろうか。登山関係の雑誌に「人の手の着いていない溪谷」として、沢登りの対象として紹介されていたし、釣りの雑誌には溪流釣りの秘境としても載っていた。途中にある鬼無里という集落にもその名ばかりでなく写真と文章で見る印象から深い興味を抱いた。交通の便は悪く、特に源流に近い所は素晴らしい溪谷であるが山越えして入るような谷だったと記憶している。

それから 50 年近い年月を経て、日本中の至る所で見られる現象ではあるが、谷間にはダムができて隈なく道路が巡り、決して秘境ではなくなってしまう。しかし一度行ってみないと何だかやり残しがあるようで落ち着かず、いつの日にか行ってみたい場所としてメモを残していたが、その機会が到来した。

平成 25 年 10 月 6 日 <自宅→長野→鬼無里→奥裾花温泉>

天気は快晴。紅葉の時期の混雑を避けて、日曜日のやや遅めの時間に出発することにした。

8 時半に自宅を出発し、千葉北 IC から首都高速経由で関越自動車道へ。

長野 IC で下りるとちょうど昼飯時、信州そばを目指して善光寺へ行き昼食を兼ねて参詣をすることにした。

天ぷら付きそばを食べた後善光寺詣り。老若男女はもとより外国人の観光客が多いのには驚いた。

13 時半に善光寺を出て国道 406 号線を西へ。長野市の郊外を抜けて裾花川に沿って進むと徐々に谷が狭くなっていくのがわかる。

いくつかの流れが合するやや広めの谷間の集落が鬼無里。快晴の空の下、車を下りてしばらく散策をして「鬼無里のにおい」を体に染み込ませる。

奥裾花溪谷への道を右に分けてしばらく進むと国道 406 号線は裾花川の支流である天神川に沿って少しずつ上り始める。このまま峠を越えてしまえば白馬に抜けられる。

上り始めてすぐのところに今宵の宿、奥裾花温泉・国民宿舎鬼無里荘がある。本日の行程はここまで。

平成 25 年 10 月 7 日 <奥裾花温泉→奥裾花溪谷→戸隠神社奥社→奥裾花温泉>

旅の二日目、天気は今日も快晴。奥裾花溪谷に入って一日じっくり溪谷探勝を楽しむことにした。

9 時に宿を出て裾花川本流を遡る道に入る。奥裾花自然園入口の駐車場からキャンプ場あたりまでシャトルバスが出ていると言う情報を得て期待したが、土日のみの運行ということがわかり、がっかり。

駐車場に車を止めてゆっくり散策と言うことになったが、やや広めの谷は快晴の日光が燦々と降り注ぎ暑い。戸隠連山の様々な形の山なみが、谷の奥へ入るにつれて色々な表情に変わって行くのが面白い。

その昔秘境と言われた頃には溪谷の水流を感じながら水辺をまたは水の中を歩いたことだろうと思うが、車が通る道は流れからはかなり離れた高い所を走っているため、溪流を肌で感じられる所は意外に少なかった。その代わりに溪谷に入ると珍しい地形や地層が現れ続ける。ケスタ地形・奇岩千畳岩・ハチの巣状風化岩・団塊（ノジュール）・砂管（サンドパイプ）などなど目を飽きさせない。太古の昔、このあたりがまだ海の底にあったということを示すものもあり、それが説明看板で示されていて退屈しない。

ミズバショウ群生地でもある奥裾花自然園まで行くと、もう堂津岳から奥西山や乙妻山に向かう稜線が目の前に迫るところまで来ていた。戸隠の岩峰の遠望を楽しみながら元の道に戻り、溪谷探勝は終了。

まだ時間が早いので戸隠へ行って見ることにしたが、上まで登るほどの時間も気力もないので、中社と奥社の参拝だけをすることにした。奥社の杉並木の参道はさぞ涼しかりょうと思ったが、風がなく 10 月とは言え少々暑さを感じる道だった。進むにつれて戸隠山の岩峰が覆いかぶさるようになり、山の懷に抱かれている感じがする奥社だった。

帰り道で、今日一日の締めとして国道 406 号線を峠まで上って北アルプスの山なみを楽しもうと思ったが、行って見たら残念ながら眺望を楽しめる峠ではなかった。国民宿舎鬼無里荘でもう一泊。

踏み跡 <My Mountains>



踏 み 跡 <My Mountains>

平成25年10月8日 <奥裾花温泉→小布施→十石峠→上野村→塩ノ沢温泉>

高速道路をぶっ飛ばして慌ただしく旅をするのではなく、ゆっくり楽しみながら帰るということにして、今日の宿は走りながら考えて、携帯電話で予約ということにした。

まずは鬼無里の集落周辺を再び散策の後小布施へ。小布施をぶらついた後須坂を抜けて、四阿山、根子岳に向かって直進し菅平へ。菅平を抜けると長い下りのあと上田の町に吸い込まれるように入っていく。

上田で農村工芸品の伝承をしているという知人の実家を訪問して展示品の見学。町はずれで昼食に食べたうどんがやけに美味しかったが、店の名前は忘れた。

湯の丸高原、箆の登山、黒斑山・浅間山と左手に並べて国道18号線を小諸まで走り、次は八ヶ岳の山なみを北東側から楽しみながら141号線を南下し羽黒下へ。ここから299号線(十石峠街道)に入り、十石峠を越えれば群馬県多野郡上野村、神流川の源流の谷になる。神流川に出てすぐに塩ノ沢に沿って北に上る県道45号線に入ると僅かで今宵の宿である塩ノ沢温泉・国民宿舎やまびこ荘。この県道は塩之沢峠を越えると南牧村に通じているが、今はトンネルが開通したため峠を越える人は少なくなってしまったらしい。実に滑稽な話だが、「塩之沢峠」をバイパスするトンネルの名前が「湯の沢トンネル」。

裾花川の奥から、一般道を走っていくつも山を越えて来たと言うと宿の人が驚いていた。

平成25年10月9日 <塩ノ沢温泉→神流町→自宅>

旅の最終日、いつものように朝風呂と朝散歩の後朝食。上野村から志賀坂峠を越えて秩父へ出るか、神流川に沿って下っていくか、少々悩みはしたが、後者のルートを選ぶことにした。

日航機の墜落で一躍有名になった上野村、そこらじゅうに立派な箱モノが目立つが村の規模以上に色々なものに投資しすぎた感じが否めない。

乙父(おっち)、乙母(おとも)、神寄など風変わりなしかも意味がありそうな地名が続き、電柱や道路標識に示された地名を車窓から見ていると飽きない。神流湖の周辺にも神山という山があり、神坂トンネルがあり神戸という地名があり、この辺り一帯は神に囲まれている。鬼石に入ると「神」という文字から解放されて、ほどなくして本庄市に入るとこれまで囲まれていた山からも解放されて関東平野に飛び出した。

途中で昼食をとって、本庄児玉ICから関越自動車道に入り一路千葉北へ。

以上